

### 3. おいしく科学しよう<高校生との心のふれあい> 岡山幼稚園(福島県福島市)

[5歳児]

「園の環境(畑・花壇・植木鉢)での栽培を通して、五感で自然物と出会い、特に食する活動を通して、豊かな心を育む」こと、そして、「栽培に詳しい高校生との交流をとおして、自然体験や直接体験を深め、自然を科学する心を育み、人とかがわる温かい心の交流を図る」ことをねらい、下記のように高校生との交流活動を進めた。

時期	内容	参加者	育てたい心・科学する心	場所
4月	稲作 もみ蒔き ペア作り	4・5歳児 高校生	種子から発芽する不思議さ 発芽への期待・生長への願い	長野幼稚園
5月	稲作 田植え	4・5歳児 高校生	泥田に入る感触・苗の植え方 生長を期待し丁寧に植える	磐田農業高校 天竜農場
5月	稲作 バケツ田植え	5歳児	毎日観察し生長を期待する	長野幼稚園
5月	パン作り	5歳児 高校生	童話による夢のあるパン作り パン作りへの期待・膨らむ不思議さ 手作りの美味しさ・3・4歳児へお土産	磐田農業高校
5月	かぼちゃ栽培	5歳児高校生	生長を期待し丁寧に植える 毎日の世話・生長への願い	園の畑
6月	玉葱ジャガイモ収穫	5歳児	収穫の喜び・形の比較・土や野菜の香り・3・4歳児へのお土産	園の畑
6月	夏野菜栽培	3～5歳児	生長を期待し丁寧に植える 毎日の世話・生長への願い	園の花壇など
6月	サツマイモつるざし とうもろこし狩	3～5歳児 高校生	生長を期待し丁寧に植える 毎日の世話・生長への願い もぎ取る体験・取れたての味わい	磐田農業高校 天竜農場
7月	カレー作り ジャガイモ堀	3～5歳児 高校生保護者	収穫野菜を調理する楽しさ・期待 手作りの美味しさ・皆で食べる喜び 掘り起こし収穫する喜び	磐田農業高校 天竜農場
7月	夏野菜収穫	3～5歳児	収穫野菜を調理する楽しさ・期待 苦手野菜の克服	長野幼稚園
7,8月	かぼちゃ収穫	5歳児高校生	収穫の喜び・形の不思議さ かぼちゃ活用への期待・並べて比較	長野幼稚園
9月	稲作 かかし作り	5歳児	稲へのいたわり・かかしの役割 稲の生長・自然の力・災害の心配	長野幼稚園
9月	芋ほり 焼き芋	3～5歳児 高校生	掘り起こし収穫する喜び・形の比較・土や野菜の香り 焚き木の香り・煙・焼き芋の味わい	磐田農業高校 天竜農場
10月	大根種蒔き	4・5歳児高校生	生長を期待し丁寧に蒔く 毎日の世話・生長への願い	園の畑
10月	かぼちゃのハロウィン	5歳児高校生	手作りの楽しさ・生活道具づくりへの期待・灯り・香り	長野幼稚園
11月	稲作 稲刈り	3～5歳児 高校生	収穫を喜び・脱穀の大切さや面白さ 黒米の不思議さ・鎌の威力・危険・かかしへの感謝	磐田農業高校 天竜農場
11月	みかん狩	4・5歳児	収穫の喜び・形の比較・みかんや木々の香り・3歳児へのお土産	磐田農業高校
12月	大根の収穫 おでんパーティー	3～5歳児 高校生	収穫の喜び・土や野菜の香り 大根との力比べ・大きさ・根の張り 収穫野菜を調理する楽しさ・温かさ	園の畑 長野幼稚園
12月	餅つき	3～5歳児 高校生保護者	収穫の喜び・白色のお餅や紫色のお餅の味わい うすと杵でつく体験 伸びるお餅・温かさ・甘み	磐田農業高校 天竜農場
2月	ジャガイモ植	4歳児	生長を期待し丁寧に植える 土の中への興味・土の感触	園の畑
2月	お別れ会	3～5歳児高校生	1年間の感謝・愛情・懐かしさ・別れの悲しさ	磐田農業高校

#### 配慮点 (抜粋)

- ◆ 年齢ごとの教育課程・指導計画の中に体験活動を効果的に取り入れること。
- ◆ 行事的、一過性に留まらないために日々の教育活動との滑らかなつながりを重視する。
- ◆ 子どもの興味関心を第一と考え、遊びの展開や体験の取り入れ方については実態を十分に把握したうえで創造していく。
- ◆ 「科学する心を育てる」ために、教師自らもみずみずしい感性をもって教育にあたり、感動する心を子どもたちと共有する。
- ◆ 五感の中でも味覚にポイントを置き、実感できた感性をフィードバックし印象付ける。



#### 事例 美味しいお米になーれ！

4月 もみ蒔き・ペア作り：長野幼稚園

5月 田植え：天竜農場

#### 育てたい心・科学する心

- ・種子から発芽する不思議さ・期待・生長への願い
- ・泥田の感触・面白さ
- ・苗の植え方・生長を願い丁寧に植える
- ・高校生の頼もしさ・優しさ・助け合い・ペアへの思い

#### ●高校生とペアになり、もみ蒔きをする

<初めての高校生(お姉さん)との出会い> 昨年の経験はあるものの新学期がスタートしてまだ日が浅いので、期待が膨らんでいる子や気乗りがしない子がいるが、どの子も高校生に会うと顔が輝いた。

教師に名前を告げられ、今年度1年間のペアが決まり、高校生は早速ひざの中に園児を入れてコミュニケーションをとりながらしてくれた。

<ペアの初めての活動『もみ蒔き』> 5歳児は昨年経験済み。4歳児は初めての経験。5歳児は「教えてあげるよ」と先輩ふる。1部のピニールを開けて中の様子を見つめる。「あっ！緑が見える。かわいい葉っぱがツツンしてる」見つけた子どもの声に反応して、5歳児がみんな集まって来た。「お米の赤ちゃん大きくなったね」発芽への期待や思いは子どもたちの心に印象づいた。

(教師の願い) 昨年の経験から教えあう姿が見られるといいな。もみがお米の赤ちゃんだと思えるといいな。発芽への願いが聞かれるといい。

## ●田植えをする

水着に着替えて、田んぼに出発！もみ蒔き同様に5歳児は得意げ。「年中さんの時もやったよ」「気持ちいいじゃんね」田んぼでは高校の先生が植え方を実演して説明。

「みんなが育ててくれた稲の赤ちゃん。大きくなったので植えるよ。

今年も黒米を食べようね」と呼びかける。いざ田んぼへ。「お姉さん、足もぐっちゃうよー。助けてー」「大丈夫よ。ほらこうやって足を動かすの。いい？」最初は転びそうになって足の運びもままならなかった子どもたちも、時間が解決。「土の中までぐっと入れると、苗が立っているよ」と高校生がやって見せる。「ほんとだ。立ったよ。根っこがはると大きくなるじゃんね。もっとたくさん植えるよ」と園児も教えてもらったことを嬉しそうに繰り返す。

「先生、時々田んぼ見に来れる？」と尋ねるM君。M君は1番最後まで田んぼに入っていて1番たくさん苗を植えていた。高校生や教師に促され、高校の先生からほめられ、やっと田んぼから上がってきた。「時々は田んぼに来れないね。今度来るのは6月だよ。」と教師が答えると「困っちゃうな。稲が大きくなったか、わからないじゃん。」そこで幼稚園でも稲を育てることを提案する。「今日植えた苗と同じのをもらって帰って、植えてみる？そしたら大きくなっていること、わかるかもね。」教師の提案に「いいよ。お水入れて可愛がると田んぼの稲みたいに育つかなー。」

田植えを終えた園児は高校生と一緒に体の汚れを落とした。「楽しかったね。お姉さんも？」と園児が尋ねると。「お姉さんも楽しかったよ。〇〇ちゃん上手に植えたね」手足の泥を洗ってくれるお姉さんはあたかも園児の母親のようであった。温かい心の交流の場であった。

(教師の願い) 泥田の感触を全身で感じてほしい。お姉さんとの距離が近づき信頼感が芽生えてほしい。もみが苗となり、稲となっていくるようお願いしながら植えしてほしい。丁寧に作業してほしい。

(教師の願い) 昨年は稲への関心が途絶えがちだったので、何とかして興味を継続したい。園内にバケツで稲を育てたら、興味が継続できるかもしれない。

## 事例 パン屋さんになりたいな

5月 パン作り：磐田農業高校稚園

### 育てたい心・科学する心

- ・パン作りへの期待・膨らむ不思議さ・手作りの美味しさ
- ・3・4歳児への思いやり・高校生への憧れ

お姉さんから得た情報『授業でパン作りやってるよ。』をもとに出た子どもたちからの要望を、高校にお願いしてみると快諾していただく。「どんなパン作りたい？」の教師の問いかけに「からすのパン屋さん」に教えてもらえばいいじゃん」とS君の一声に、童話「からすのパン屋さん」(かこさとし著)に群がる子どもたち。「ぼく電車パンにする」「私きれいなお花パン」夢はふくらむふくらむ。高校生と合流後、白衣に着替え、ちびっ子パン職人に変身。やる気満々。

(教師の願い) パンの材料に触れてほしい。世界に1つしかない自分だけのパンを手作りすることに夢をもってほしい。こねる・丸める・形作る・顔を描くなどパン作りの過程を楽しんでほしい。

## ●パン作り

「さあ、丸めるよ」手際のいいお姉さんたちの仕事。園児は目を丸くして、尊敬のまなざしを向ける。丸めた生地を伸ばして大きくする。あんこを包んで、形を整える。何の形にしようかと、思い思いの形に取り組む。「うまくできない。粘土と違う。お姉さん助けて。丸めるのって難しい」さまざまな思いの中で進む。「なに作りたいの？動物だと丸いお顔でかわいいね」高校生のアドバイスと手助けで、やっと自分の手作りパンが完成。チョコペンで顔を描きいれ「かわいいでしょ？」と満足顔。



「オープンに入れて膨らませるよ」と一つ目のオープンに。膨らんだら焼くよ。二つ目のオープンから出てきたパン。世界で1つだけのパン。「僕だってパンできた」「ちびっ子パンやさん」「食べるのもったいないね」と大騒ぎの園児。

(教師の願い) (教師の願い) 自分の思いを表現してほしい。成功体験だけでなく苦勞をする体験や結果が違ふことへの意外性を感じてほしい。もの作りの醍醐味と大変さを本物を通して知ってほしい。高校生への憧れと信頼をもってほしい。

## ●パン屋さんごっこ

5歳児だけの経験に留まらず、3・4歳児も美味しいお土産を味わった。「幼稚園でも作ろう」と行った5歳児のパン屋さんごっこに、3・4歳児が参加して疑似体験をし、今後に期待が広まった。

## ポイント

幼児と高校生が共通の体験を通して心のふれあいをし、それぞれの場面で「育てたい心・科学する心」が育つことを願って進められました。相互に心が育ち合うように、毎月計画的に実践が重ねられています。また、その実践の中では、「中までぐっと植えた苗が、ぴんと立つ」「パン作りの過程で、生地の感触や変化を感じる」など活動への興味や目的意識、意欲を持って主体的に取り組むことで、子どもたちの「科学する心」が育ったことが分かります。また、高校生も、幼児に丁寧に伝える中で、新たな発見や思いやりの心に気づき、自身の変容を実感できたのではないのでしょうか。